

○影山 滋彦、村岡 千夏、大井 正典、北垣 憲一

(バイエルクロップサイエンス株式会社)

【はじめに】

バイエルクロップサイエンス(株)は 播種時覆土前から移植当日までと幅広い処理時期の登録をもつ水稲用苗箱施用剤の製造・販売を行っており、特に機械化が可能な播種時覆土前処理は、作業の更なる省力化に貢献できるものと考えている。

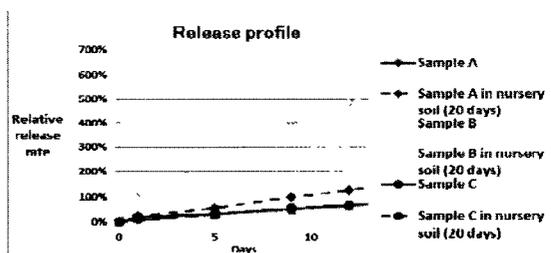
一方、この幅広い処理時期を可能にするため、製剤には処理時期に依存しない性能が求められる。作物への安全性や残効性の点から、育苗期間中の製剤への影響は極力抑えられるべきであり、育苗期間中の製剤への影響評価は製剤開発上重要な指標となる。そこで今回、生物試験に供試する前のスクリーニングとして使用できる、育苗期間中の製剤への影響を評価する弊社で開発した試験法を報告する。

【試験方法】

メッシュシート（目開き 190 μm ）を用いて 1 辺 5 cm 角の大きさに加工した袋に、粉碎した培土と供試製剤を封入。これを、含水率を調整した培土に埋設。20 日間の恒温室内（25 $^{\circ}\text{C}$ ）での培養後、バッグを取り出し、供試製剤を培土と分離。この製剤を溶出試験に供試し、溶出動態の変化を調査した。

【結果と考察】

- ・製剤により、培土埋設前後で溶出率に差が見られた。
- ・今回の試験条件下、製剤により溶出制御が外れる場合があることが認められた。



以上の結果より、製剤に与える育苗期間中の影響は、今回検討した条件において評価することが可能で、生物試験への供試剤スクリーニングの一つの指標となると考える。

Evaluation method for release profile of controlled release Granules in soil

○Shigehiko Kageyama, Chinatsu Muraoka, Masanori Oi and Kenichi Kitagaki

(Bayer CropScience K.K.)

“At sowing” application allows labor saving of farmers by mechanization. In order to develop new formulations with this application timing, we have developed laboratory method to evaluate the influence of nursery stage on the formulation performance.